

2024年度 事業報告

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた

1. 事業の成果

事業実施により、さまざまな困難を抱える若者たちが不名誉感や傷つきを感じることなく、気軽に立ち寄ることができる敷居の低いフリースペースの活動ができた。加えて、そこからステップアップする形で子ども若者食堂「みんなでつくたべ!」を開き、参加する若者の活躍の場を創出することもできた。「みんなでつくたべ!」の参加対象者をこれまでのオープンなものから、学校が苦手な子どもとその保護者、ひとり親家庭に限定したクローズな形に変更した。それは、地域に一般的な子ども食堂が増えたことで、一定の役割を終えたと判断し、一般的な子ども食堂に対してスティグマを感じ、利用をためらう家庭があるという課題への対応でもあった。そのことにより、学校が苦手な家族の参加が増えたことで、気軽に相談できる窓口がひとつ増えたという成果になった。

4年目を迎えた小中学生の居場所づくり「フリースクールよつば」は、学校と連携しながら、子ども主体の居場所づくりができた。また、今年度は卒業生2人(高校進学)を送り出すことができた。

10年目を迎えた親の会では、当事者家族の孤立を防ぎ、家族間の雰囲気をやわらげたり、凝り固まった価値観を緩めたりすることで、辛い状況にある方に支援を届けることができた。

7年前から実施している親の会の立ち上げ支援は、二つの市町村で実施。飯豊町では16団体目となる『クローバーの会@いいで』が立ち上がった。中山町では完全な立ち上げには至らなかったものの、準備会が動き始めている。これまで立ち上げた親の会は、現在も各地域で悩める親たちの駆け込み寺としての役割を果たしている。

コロナ禍より開始したひとり親家庭への「フードパントリー」（食料無料配布）を継続して実施することができた。加えて、ひとり親の相談会も開催できた。

3年目となる子育て中の山形市民を対象とした「子ども見守り宅食」では、山形市や山形市社会福祉協議会と連携しながら、子どもの見守りを継続し実施できた。

学習支援では、フリースクールの子どもたちや通信制高校在籍の若者へ拠点型や出張型での関りを継続することができた。

大きなイベントとしてNPO法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク「夏の全国大会2024」が山形で開催されるにあたり、当団体が現地実行委員会の中心となり、県内の活動団体と協力して広報や運営を担い、大会を支えた。これにより、全国の団体との連携が強化されただけでなく、山形県教育委員会や山形市教育委員会とも協働体制の構築にもつながった。

法人化から3年を迎え、活動の周知が進んだことで、企業・個人からの寄付や物品支援、体験活動の機会提供も得られ、活動を着実に推進することができた。

上記を通じて、多様な背景を持つ子ども・若者たちおよびその保護者の困りごとやニーズを的確に把握し自立支援へとつなげることができた。

- ①「不登校・ひきこもりの相談窓口の開設」事業
- ②「若者に居場所を提供するフリースペース」事業
- ③「子どもに居場所を提供するフリースクール」事業
- ④「不登校・ひきこもりの家庭を対象とした親の会開催」事業
- ⑤「地域に根ざした親の会の立ち上げ支援」事業
- ⑥「地域住民への理解促進を目的とした学習会などの開催」事業
- ⑦「子ども・若者を中心とした地域食堂の運営」事業
- ⑧「拠点型・出張型学習支援」事業
- ⑨「ひとり親、困窮する子育て世帯への支援」事業
- ⑩「子ども見守り宅食」事業

※①③④⑤⑥は「令和6年度若者相談支援拠点設置運営事業」の業務委託(山形県しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課)により実施。②のフリースクール事業は、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの「だいいょうぶだよ! 基金第7次助成」と自主財源にて実施。⑦⑨山形県子どもの居場所運営支援事業の助成、一般財団法人 篠原欣子記念財団「フルーツ支援助成金」、宅食応援団助成金、自主財源(寄付金)にて実施。⑧は自主財源により実施。⑨は東京都森正勝さまからのご寄付、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの「だいいょうぶだよ! 基金第7次助成」、つながり基金プロジェクト助成により実施。⑩は「こども見守り宅食食品調達・宅食訪問支援」の業務委託(山形市こども未来部こども家庭支援課)により実施。